



特定医療法人

鵬友会 ニュースレター

第3号 発行 / 2006年7月15日
特定医療法人 鵬友会
発行責任者 /
事務局長 池島 守

これからの医療・福祉は在宅重視へ

～仕事は夢とロマン～

鵬友会 事務局次長 相澤 利彦



鵬友会ニュースレター3号発刊にあたり、お世話になっている皆様や職員にお礼を申し上げます。この機会に、日頃の業務の中で考えていることなどを申し述べてみましょう。

医療・福祉の現場で最も大切にしなければならないことの第一は、「接遇」です。身体や心が傷つき、弱い心情になっていられる方々への職員一人ひとりの態度や電話での対応など「接遇」です。そのことによって、患者・家族の方々が言葉で、話題にしてくださり、口コミで広がってゆきます。例えば、北海道に自分の病気にとって良い医者が居るといふ評判を聞けば、飛んで行って診療を受けようとします。医療は第三次産業、つまり、サービス業ですから、誠心誠意「接遇」を続けていく。勿論、医療内容が大切ということは論を俟ちませんが・・・。

第二には東芝の社長から、「実心・実語・実行」という言葉を聞き、これが私のポリシーだと思いました。心で思ったことは言葉で表す。言葉で表現したことは、必ず実行する。種を蒔いて育て、必ず刈り取る。自分でしたことには、必ず責任を取るといふことです。

三番目には地域医療・福祉についてです。グループホーム「ほのぼの」を第一号として、株式会社「アイシマ」で10施設ですが、地元の評判が悪くは経営していられません。これからは、在宅に軸足を置かなければと考えています。そこで、理学療法士・作業療法士をもう少し増やして訪問リハビリテーションにも力を入れたい。どこを拠点にするか、どのような連携をとるかこれから考えてみるつもりです。

最後に職員の問題です。今年、四月の診療報酬改正によって、特に看護職員の不足が顕著で、各病院は困難に直面しています。その背景には、看護師の過酷な労働に対して看護協会・社会保険庁などの考え方で改善したいということだと思います。施設基準の改正により、看護師不足が招来しており、労働条件の良いところへと、移動する心配があります。

みかん箱を病院に喩えると、1つが腐っていると全部のみかんがだめになる。いくら人材不足でも一人が良くないと、全員が駄目になってしまう。それを防ぐには、職員教育が不可欠です。

志の高い、人材を育成し、地域に貢献できるようなシステムやハードを整備し、職員が働く事に展望の持てる、鵬友会をめざしたいものです。

新中川病院 診療報酬改定をテーマに局長講話



ほうゆう病院 七夕祭り

笹に願い事が書かれた短冊を皆一生懸命飾りつけされていました。

(OT 佐藤)



ほうゆう病院 看護学生老年期実習



ほうゆう病院にて、厚木看護専門学校3年生の学生が「看護となるもの」実習です。将来の看護師さん、頑張ってください!!

図書貸出しのお知らせ

湘南泉病院 待合室テレビの下にて図書貸出しをしておりますので、ご自由にお読み下さい。ノートに記入して下さい。宜しくお願いします。

貸出期間 - 2週間位

お問い合わせ

鵬友会本部 永澤・長崎

ヘルパーカレッジ 卒業 おめでとう



前沢カレッジ長より卒業修了書 授与

第6期 ヘルパーカレッジ募集のお知らせ

次回第6期は、9月上旬開講の予定です。お問合せは、下記担当者までお電話下さい。

- ・カレッジ長 前沢 阿久和鳳荘 045 - 812 - 8881
- ・コーディネーター 上村 ほうゆう病院 045 - 360 - 8787